

資料室便り

交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）

『鉄道ほとんど不要論』

福井義高著／中央経済社発行／2023年9月／
四六判／232ページ／1,980円（税込）

鉄道の輸送量は人口減少やコロナの影響を受け減少、今後も以前の水準には戻らないと言われており、閑散路線の廃止などは大きな課題となっている。しかしいざ存廃の話となると、鉄道はどうやって残すかという立場を前提に語られがちで、公費投入を当然視する向きもある。もちろん、すべての国民に移動の自由を保障する必要がある。ただ、それが鉄道という乗合かつ公共の交通手段である必要はなく、地域の実情を踏まえて道路を活用した輸送手段に切り替えた方がいいのではないか。本書では、地方ローカル線をはじめ、鉄道本来の特性を活かせないリニアや整備新幹線、鉄道貨物はすべて不要、衰退する鉄道を最大限に生き永らえさせる道は“公共性の呪縛”からの解放以外にないと、国鉄改革の功罪を整理しながら明らかにしようとする。 原□

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『西ドイツ交通政策研究』

杉山雅洋著／成文堂発行／1985年4月

本書は、交通経済の研究者（執筆当時早稲田大学教授。のちに日本交通学会会長を歴任）が、主にドイツ連邦共和国（西ドイツ）成立時から1980年代初頭までの交通政策を、歴史研究、理論研究、実証研究おのおのの立場をとり入れて多角的に考察したものである。まず、西ドイツの交通政策運

営の基調、輸送実態・制度などの現状を明確にしてから、社会的市場経済システムにおける交通政策、価格政策の中枢を占める運賃・料金政策の制度的・理論的側面、および歴代連邦交通相によって展開された交通政策などについて考察している。次に、自家用トラック輸送の容量規制政策、連邦鉄道の社会的価値の評価、大規模交通投資の効率性分析など、西ドイツの交通政策において重要なテーマについて考察が行われている。国内外の多くの資料を参考にして執筆されており、ドイツの交通研究において有益な資料である。 古森□

■新着情報（2023年9月分）

- 1 湘南モノレール50年の軌跡——モノレール実験線が「湘南ジェットコースター」になるまで
森川天喜 神奈川新聞社 2023年5月
- 2 スマートモビリティ時代の地域とクルマ——社会工学アプローチによる課題解決 大澤義明編
学芸出版社 2023年9月
- 3 「空のみなと」のインフラ学——未来の空港・航空システムを語る 山縣宣彦、轟朝幸、加藤一誠編 成山堂書店 2023年8月

→続きの情報はホームページで

* 上記以外の新着図書や新着雑誌につきましては、ホームページをご覧ください。キーワードによる蔵書検索も可能です。併せて月別の「新着図書目録」も掲載しています。



■資料室からのご案内

「書庫のなかから（所蔵資料の紹介）」で取り上げた図書は、すべて手に取ってご覧いただけます。併せて、蔵書検索システムで「所在」が「上野」と記してあるものもすべて、資料室でのご利用が可能です。ぜひ私どもの資料室にお越しください。お待ちしております。

担当：土方規義 古森崇史 原祥太 田邊由佳